

『職原抄』 という本

国文学研究資料館

National Institute for Japanese Literature

今西 祐一郎

※本資料中の古典籍の画像は、いずれも個人蔵の資料による。

枕草子

位こそ、なほめでたきものはあれ。

同じ人ながら「大夫の君」「侍従の君」などはいとあなづりやすきものを、中納言、大納言、大臣などにりたまひては、無下にせくかたもなう、やむごとなくおぼえ給ふことのこよなさよ。

北畠親房 (1293－1354)

- 南北朝時代

『神皇正統記』

EDO Printed Books
at
Berkeley

※

カリフォルニア大学バークレー校
所 蔵

三井文庫旧蔵
江戸版本書目

※

編 集

岡 雅彦	国立国文学研究資料館
児玉史子	国立国会図書館
戸沢幾子	国立国会図書館
石松久幸	カリフォルニア大学バークレー校

ゆまに書房

EDO PRINTED BOOKS
at
BERKELEY

Formerly of the Mitsui Library
in the Collection of the
University of California at Berkeley

Cataloged and Compiled
by

Oka Masahiko	岡 雅彦
Kodama Fumiko	児玉文子
Tozawa Ikuko	戸沢幾子
Ishimatsu Hisayuki	石松久幸

Yumani Shobo, Publisher Inc.

1990

四 官 職

1 公 家

3138

官職秘鈔 2巻 Kanshoku hishō

平基親 Taira, Motochika

洛陽 長谷川次郎兵衛 村田庄五郎 元禄13
(1700) 2冊 28cm

官職秘鈔後付あり

3—4—1070

3139

職原鈔 2巻 Shokugen shō

北畠親房 Kitabatake, Chikafusa

1冊 27cm

群書類従第71

4772.2/1203/1820

3140

職原抄私記 2巻 Shokugen shō shiki

1冊 28cm

4772.2/1203

3141

職原抄聞書 8巻 Shokugen shō kikigaki

林春斎 Hayashi, Shunsai 与志多幸庵
Yoshida, Kōan

寛文13(1673)序 8冊 27cm

書名は序による

4772.2/1203/1681

3142

職原鈔追加拙解 3巻付1巻 Shokugen
shō tsuika sekkai

三宅環翠 Miyake, Kansui

京都 銭屋儀兵衛 天和元(1681) 4冊
27cm

延宝9年序

4772.2/1203/1681

3143

職原抄支流 5巻 Shokugen shō shiryū

江戸 藤本兵左衛門 田中理兵衛 天和3
(1683) 1冊 16cm

4772.2/1754

3144

職原抄支流大全 5巻 Shokugen shō shi
ryū taizen

大阪 河内屋嘉七郎 1冊 16cm

書名は目録首による 題簽：職原抄支流

4772.2/1754/1700

3145

職原攬要 Shokugen ran'yō

速水房常 Hayami, Fusatsune

皇都 泉太兵衛等 文化9(1812) 1冊
8×16cm

見返し：掌中職原攬要 4772.2/3139/1812

3146

職原攬要 Shokugen ran'yō

速水房常 Hayami, Fusatsune

皇都 泉太兵衛等 文化9(1812) 1冊
8×17cm

見返し：掌中職原攬要 N—508

3147

職原攬要大成 Shokugen ran'yō taisei

速水房常 Hayami, Fusatsune

皇都 越後屋治兵衛等 文久3(1863)
1冊 9×18cm

見返し：掌中職原攬要大成 弘化4年版の改
正 4772.2/3139/1863

3148

職原攬要大成 Shokugen ran'yō taisei

速水房常 Hayami, Fusatsune

皇都 越後屋治兵衛等 文久3 (1863)

1冊 9×18cm

見返し：掌中職原攬要大成 弘化4年版の改正
N—508

3149

標注職原抄校本 2巻別記2巻 Hyōchū
shokugen shō kōhon

近藤芳樹 Kondō, Yoshiki

大坂 秋田屋太右衛門等 安政5 (1858)

6冊 27cm

嘉永7年序 3—4—1047

3150

有職問答 Yūsoku mondō

大内義隆 Ōuchi, Yoshitaka 三条西実隆

Sanjōnishi, Sanetaka

洛陽 林和泉 万治2 (1659) 1冊 27cm

4773/4487

『百寮訓要抄』

百寮訓要抄

百官といふ天子にまゐる内外は定数必具
負頼るべきありされども百寮の儀ふく中
侍や又百寮のありの儀也

内裏と百敷といふ百官は定数あるべき
有令條のより取り官中古来増減の
事あり官はふ入るとある同末代
より法友れ人より敷をきるとん延喜天
曆以後は貴方にいふとて唐やけに和
國融以後は重代計に貴く其の儀也
その事とて是末代政の陵遲の如き又上古

左近衛府

左近衛府といふ左近衛といふよりなりなり武勇
也左近衛門左衛兵衛といふ左近といふ是は左近
の如く左近といふ職を左近といふ内と左近といふ
大将

左近といふより左近の左近といふ位五位
なる家傳ありは是よりなりなり中
左近の職なり左近兵衛と帯といふ

中将

『官職秘抄』

官職秘抄上

神祇官カニツカサ

伯カニ

以孫王若三四世王氏任之或華族源氏中撰四位任之或大中臣氏自大副轉之始自淵魚○叙三位始自大中臣輔親○非祭主為三位例源顯仲仲資王

副ス 大少有權

官職秘抄上

國史和由

小山氏圖書記

主典

已上為侍官以本院請任之○三代任

主典例惟宗義基寛治康和天仁

左右近衛府令外官

大將

大臣太納言撰其人任之但攝政關白家嫡雖中納言參議任之多左○非執柄子息中納言兼任例氏公○三位任

職原抄上



百官

推古天皇御宇聖德太子攝政十二年甲子正月始定冠位十二階 孝德天皇大化五年始置八省百官先是大臣大連等有之 文武天皇大寶元年正一位藤原太政大臣淡海公不比等是也奉勅撰律令以官位及職負為其首其後多有減省又新加之

三井家鑒藏

史サシ大少

唐名大常主簿

太政官

當唐尚書省又号鸞臺 蘭省雖為官之惣号近代稱辨官也

當官統八省及諸國天下事悉決此官也故云都省本名乾政官

太政大臣一人相當正從一位 唐名大師 稱國 大尉

師範一人儀形四海無其人則闕云故云則闕之官有德之撰故非其人者常

職原抄上



百官

推古天皇御宇聖德太子攝政十二年甲子正月始定冠位十二階孝德天皇大化五年始置八省百官先是太臣太連号有之文武天皇大寶元年正一位藤原太政大臣淡海公不比等是也奉勅撰律令以官位及職負為其首其後多有減省又新加之

有不給大之族彼等苗裔猶稱中臣也

史大

唐名大常主簿

太政官

當唐尚書省又号鸞臺蘭省雖為官之惣号近代稱辨官也

當官統八省及諸國天下事悉決此官也

故云都省本名乾政官

太政大臣一人

相當正從一位唐名大師

大尉

師範一人儀形四海無其人則闕云云故

云則闕之官有德之撰故非其人者常

本從其宜而已并可便覽者七
八科附其後

于省慶長戊申夏四月蚩蚩出日

吏部少卿清原秀賢誌



本從其宜而已并可便覽者十
八科附其後

于省慶長戊申夏四月蚩蚩出自

吏部少卿清原秀賢誌

職原抄上



百官

推古天皇御宇聖德太子攝政十二年甲子正月始定冠位十二階孝德天皇大化五年始置八省百官先是大臣大連号有之文武天皇大寶元年正一位藤原太政大臣淡海公不比等は也奉勅撰律令以官位及職負爲其首其後多有減省又新加之

職原抄上



百官

推古天皇御宇聖德太子攝政十二年甲子正月始定冠位十二階孝德天皇大化五年始置八省百官先是太臣太連号有之文武天皇太寶元年正一位藤原太政大臣淡海公不比等は也奉勅撰律令以官位及職負爲其首其後多有減省又新加之

職原抄上



百官

推古天皇御

職原抄上

百官

推古天皇御

天文博士

權

相當正七位下
唐名司夫 又靈臺郎

天文道任之近代五位已上任之

漏刻博士

權

相當從七位下
司辰 或司辰司刻

唐名
掣在正

五位六位共任之

内匠寮

令外

唐名少府
掌工匠事但近代木工修理知

其事頗似無其實

頭一人

無權官
唐名少府監

相當從五位上
或中匠令

諸大夫及諸道五位等任之

天文博士

權

相當正七位下
唐名司天 又靈臺郎

天文道任之近代五位已上任之

漏刻博士

權

相當從七位下
司辰 或司辰司刻

唐名
掣在郎

五位六位共任之

内匠寮

令外

唐名少府
掌工匠事但近代木工修理知

其事頗似無其實

頭一人

無權官
唐名少府監

相當從五位上
或中匠令

諸太夫及諸道五位等任之

正保二年板

職原抄上

百官

推古天皇御宇聖德太子攝政十二年甲子正月始定冠位十二階孝德天皇太化五年始置八省百官先是太臣大連号有之文武天皇太寶元年正一位藤原太政大臣淡海公不比等是也奉勅撰律令以官位及職負為其首其後多有減省又新加之官謂之令外官但内大臣中納言等太寶

數本從其宜而已并可便覽者七八科附其後

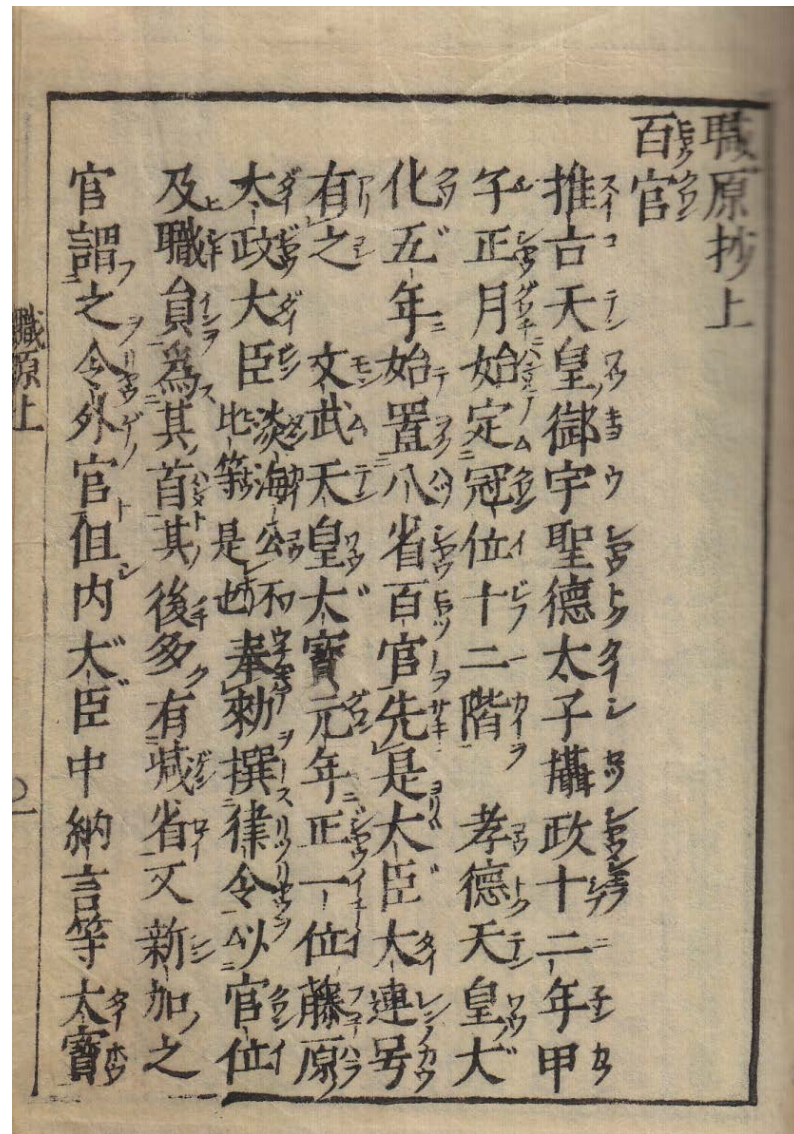
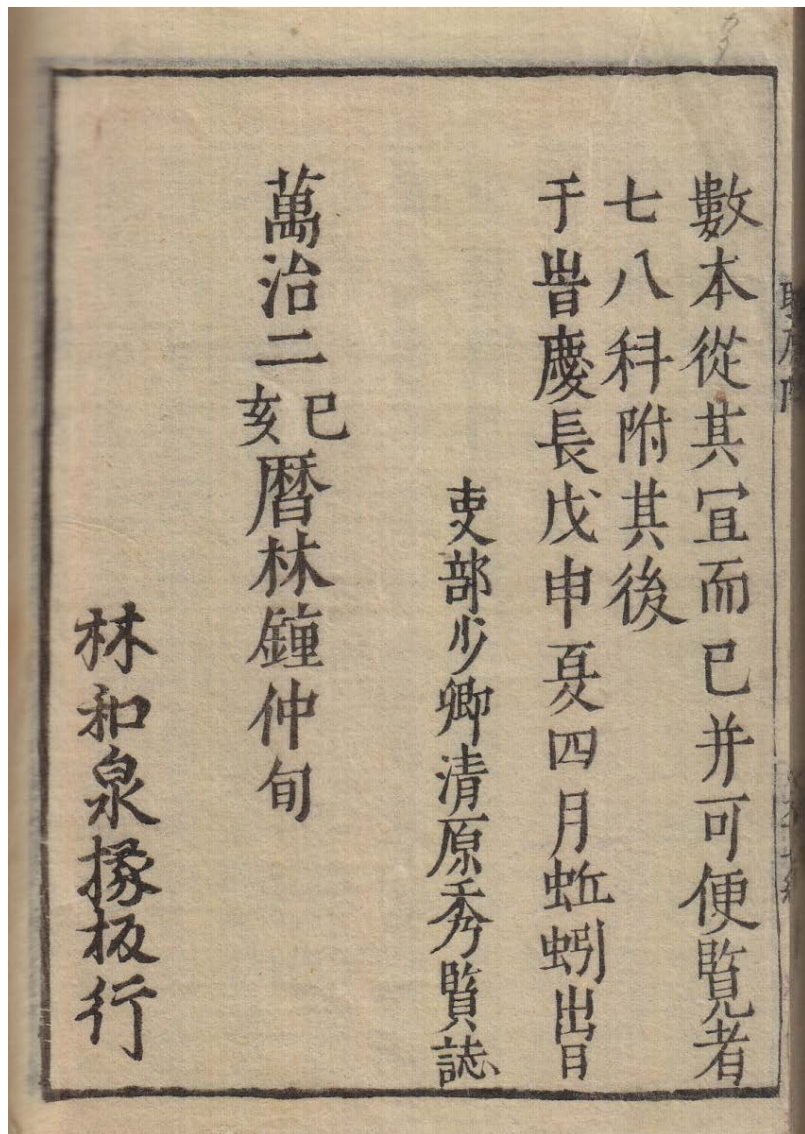
于皆慶長戊申夏四月蚯蚓出日

吏部少卿清原秀賢誌

正保貳曆九月上旬重刊

万治2年刊 (小本・九行)

正保二年版の縮小模刻



職原抄上

百官

推古天皇御宇聖德太子攝政十二年甲子正月始定冠位十二階 孝德天皇大化五年始置八省百官先是太臣大連等有之 文武天皇太寶元年正一位藤原大政大臣 淡海公和 奉勅撰律令以官位及職負為其首其後多有減省又新加之官謂之令外官但內大臣中納言等大寶



官位相當書樣者 先官後位是相當
先位後官不相當 位勝官劣書行字
高官下位以守字

延寶七年_{巳未}二月吉日

井筒屋

六兵衛 開板

職原鈔上

百官

速水房常校訂

推古天皇御宇聖德太子攝政十二年甲子正月始定冠位十二階孝德天皇大化五年始置八省百官先是大臣太連号有之文武天皇大寶元年正一位藤原太政大臣淡海公不比等は也奉勅撰律令以官位及職負為其首其後多有減省又新加之

右職原鈔及補遺後附坊間所行舛誤所脫不為勘矣今質諸舊本考註古記改其顯誤存其可疑旁書之圈之若夫相當唐官固係後人所加也故據官位令等改正填補云

延享丁卯孟春

速水房常謹識





職原私抄卷之上

一編此書事

光明院

光嚴卿猶子

御宇曆應三年也

一南朝

後醍醐天皇

正慶元十七主上

光嚴院

兩院幸六

波羅

五七

官方西國群勢等寄來海中

六波羅合戰八日

兩院主上御没落六波羅武

士御共正慶二年先代滅亡

職原抄

清三位入道宗尤私抄

號瓊翠軒

此抄ハ北島ノ准右親房公ノ作也准右ノ事ハ南朝

ニ於テノ宣下也當朝ニ於テハ不可用ト云ヘトモ今

二北島ノ准右ト稱シ來リ是他ニ異ナル事也

雅家師親師重親房 大納言正二位按察使左衛

門督

職原抄私記卷上一

一本

此書者北島准右ノ作也其故太平記ニ見エタリ後醍醐

天皇吉野ニ都ラウツサル時ノ事也天皇吉野ヘ臨幸

ノ時竊ニ御身ハカリ臨幸ナルノ故ニ付從フ公卿モ

マシク身ハカリヌケテ伺候スル故ニ書典ハ一卷モ持

テユカヌソ此吉野ヲ南朝ト云ソ山城ノ京ニハ持明

院殿王タルソ謚シテ光嚴院ト云ヘリ是ヲ當朝ト

云ソ南朝ニテ政事其外儀式ヲ執行ハシモ書典ニ

卷モナキ故ニ官職ノ沙汰ナラスソ故ニ天皇准右親

房ノ親師重ニ官職ノ事詳ニ編集仕レト勅宣有ソ其



題職原鈔別勘

繫辭曰易則易知簡則易從職原抄之爲作也誠其然乎源准后親房卿約令式之廣博以爲兩帙著官職之本源以隨簡便是以中古已還頗平世之議公務謀政事者率無不以此爲準的也可謂上自公卿大夫而下至於諸寮諸司官階之指南揔在此

職原抄引事大全卷之一

後學榎木悅 集註

職原抄

○今義解曰職者職司也。余雅主也。增韻執掌也。此抄述官位職三。今不謂二而謂職者臣有職而後至官位故也。書周官篇六卿分職是意也。原者與源同又元也。言記官位職之原始之義也。禮記注原者泉之所出也。又或抄言天原海原之意。言此書列官位職如原野廣也。此說非也。抄者與鈔同。字彙云抄俗鈔字。又漢以擬書曰鈔。此書律令格式除書等之拔書也。又和漢以注解曰抄。此書記官職伸注解也。二說共符合矣。職字韻會質力切也。

職原句解卷之三

中務省

二条南町，西南北二町

令註曰凡中務省者詔勅之所通官中之所要故
次二宮之後居七省之前○續日本紀曰天平寶
字二年八月中務省宣傳勅語必可有信故改爲
信部省▲省案漢書昭帝紀師古註曰省察也言
入此中皆當視察不可妄也 字彙註漢以禁中
爲省中舊名禁中避元后諱改名省中云云故本
朝又稱官舍爲省乎

官中事

官名職名者取者取之義應其人之器量而當務朝廷之役事有取掌而後有官之言下有官
之高下而有位階之品然則取者官位之伴也有取而官位之品自定此抄兼明官位取之義因名取原假
全云云官而取天下職
也相當正一位位也納
官官而司奏請宣傳
取也相當二位位也錄
當且類推之

職原抄上開書卷之一

職

爾雅主也增職執掌也

原

與源同又元也言記官位職之原始之義
也禮記雜記篇註云原者泉之所出也一

說

如野原之原也言列官位職之廣也此說
不是然可有海原天原之義人皇三十九

代

天智天皇御宇安倍仲麻呂渡唐而學周
禮畢而歸朝之時舟中而遠詠奈良之方咏

之

天之原振避見者春日成三笠之山仁出
志月加毛依此哥見則有一義歟南礼者周

本

且之製作而異朝之載官位之書籍也或
云職者體也官者用也又司俸祿有威名曰

職

也有才德各曰官也初以官位職之三爲
一部之太意也然以職之一字含畜位官之

原者多重之義因
天高宏祚天原以海
淵林海原及祢野原
河原音家其宏集
此抄雖小冊明官位取
莫不載者因名取原
功者按率之義也



職原抄支流卷上目錄

攝家之事井家業カダ攝政サツセイ關白クワンハク太閤タカウ

清華之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

大臣家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

羽林家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

名家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

羽林名家之外之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

新家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

羽林井武家任官之次第カダ肥近衆之事カダ攝家任官之次第之事カダ



職原抄支流目錄

卷一

攝家之事井家業カダ攝政サツセイ關白クワンハク太閤タカウ

清花之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

大臣家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

羽林家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

名家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

新家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

肥近衆之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

羽林名家之外之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

職

長

卷一

職原抄支流目錄

攝家之事井家業カダ攝政サツセイ關白クワンハク太閤タカウ

清華之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

大臣家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

羽林家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

名家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

新家之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

羽林名家之外之事井家業カダ極位キョクイ極官キョクカン

職原鈔辨疑私考卷之上

○辨職原鈔非在芳野作_上

職原鈔八源准后

_{親房入道}

南朝ノ政事廢ナシコトヲ思ヒ。

且春秋ノ除目_{ガモク}

ノタメニ述

作シタマフ書ナリト言傳フ

又其書ヲ芳野ノ朝ニテ記玉フト言フハ非ナリ。_{義知按自}

書玉フ跋ニ在_テ逆旅不_ニ蓄_ニ一卷之文書ト言フ。此時

准后常陸國小田ノ城ニアリ故ニ逆旅ト書記シタ

マフ或軍記ニ見タリ。又林氏准后ノ傳ヲ記サレシニモ

其事詳ナリ。神皇正統記曰芳野ニ入セ玉ヒ又行宮

和歌職原抄卷之一

四配當和歌集

八省之歌一首

中務式部民部近衛相模刑部大藏大内八省

中務ハ

中務省ハ官舎の若かりし發舎を云

日ハ坊障と云ふあり

一と云ふ和判なるまはる

ふと云ふはるると云ふ是をいハ代發令の中を

と云ふハ重職と云ふ官ハ形ももの人の重

ト云ふハ一官ハ看る人ハ禁中ハ法事

文字に云ふと云ふ冬後ハ一と云ふ宰相と云ふと云ふ

冬後ハ

和官ハ名なれど又云ふと云ふ

時ハ冬後と云ふと云ふハ一と云ふと云ふ

冬後と云ふ宰相と云ふと云ふ

中納言ハ一と云ふ後三位と云ふハ一と云ふ

中納言ハ

一と云ふハ一と云ふ後三位と云ふハ一と云ふ

後三位と云ふハ一と云ふハ一と云ふ

三位なりと云ふ

大納言ハ一と云ふハ一と云ふハ一と云ふ

官位相当

官 位

官職位階

(つかさ くらい)

中將の相当はただ従四位下ぞ
いまは三位の中將もあり

中將は相当従四位下なり。いまの武家は正四位上下なり。

三位の中將は大臣の子や孫ならねば三位に叙することあたはず。

・四位なれば殿上人といふなれど
三位中将公卿とぞいふ

公卿とは三位以上をいふ。中将の相当は四位なれば殿上人といふべけれども、三位なれば公卿の列なりとぞ。

官職昇進錄六

太政大臣



祚 按察大納言

品 大納言右大將

大納言

位 太子傳



大率師

祚 上野大守
品 式部卿
位 中務卿



祚 大納言
位 按察大納言

中納言
左衛門督



按察使

階 按察大納言
等 参謀
級 中納言
祚 大納言



階 中納言左門督
等 大納言

中納言
右衛門督



春官大夫

品 按察使
位 参謀



進 進 丞 丞

主殿助

級 叙留之悦



頭 頭 大副 大副



頭 頭 丞 丞



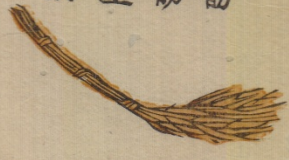
主殿助

等 大舍人助

級 掃尸助

祚 兵丁大丞

品 主殿頭



掃部助

祚 雅樂助

品 主稅助

位 宮内大丞

階 掃尸頭



大學助

祚 回玄助

品 主計助

位 大舍人助

階 大學頭



刑部少丞

祚 治尸少丞

品 兵庫助

位 刑尸大丞

階 回玄助



大蔵少丞

位 兵尸少丞

階 雅樂助

等 大蔵大丞

級 主殿助



中務少丞

位 陰陽助

階 中務大丞

等 大舍人助

級 縫殿助



諸寮属

位 諸寮允

階 左京属



諸司令史

等 諸司佑

級 囚獄司



囚獄司

